新会長挨拶

日本小児科医会会長
天野　　曄

日本小児科医会の第２代会長に選んでいただき，心から感謝申しあげると同時に，重責を感ずる次第である。私は内藤先生のような実績も知名度もなく，先生のご人格，ご見識には及びもつかない。歴代の副会長，監事，役員の先生方にも遠く及ばない。その私が日本小児科医会をお引き受けするわけであるから，皆様のお力を是非ともお貸しいただきたい。

運営については，各都道府県の先生方のご意見やご要望を真摯に受けとめ，私なりに咀嚼して，和をもって新執行部の舵取りをしていきたいと考えている。日本小児科医会に目を見はるような歴史があるのは，会員の方々が将来を見つめ，情熱を燃やされた結果であると思う。このすばらしい歴史を汚さず，さらに輝かしい一ページを加えることができれば，これにまさる喜びはない。是非とも皆様方のご支援を賜りたい。

本会の一番大切な柱の一つに生涯研修がある。今年も盛岡で第８回セミナーが盛大に開かれたが，これから先も，日本小児科学会などと協力して発展させていきたいと考えている。

社会保険の分野では，いろいろな問題に直面している。とくに，病院小児科については心を痛めている。給付率についても，90％を実現したいと常々思っている。また，全国的な乳幼児医療費の助成制度については，上から号令をかけてもなかなかできるものではない。地元から要求していくのが本当の道かと思うが，われわれの組織の力をバックにして強力に進めることが重要であるとも考えている。さらに，こうした一連の活動は，将来の小児保健法の制定も視野に入れながら進めていきたい。

予防接種については，接種率の低下が非常に危惧されている。国際会議でも，日本は麻疹でまだ死んでいるのか，麻疹ワクチンの接種率が下がっているのか，麻疹ワクチンを１回しか打たないのは日本だけではないのか，といろいろな人にいわれる。こんなことも是正していかなければならない。また，接種事故については，国，あるいは行政との話し合いで，救済制度を一本化できるよう働きかけていかなければならない。

もう一つの柱として国際交流がある。WHO，UNICEF，日中育児研究会などが主なものであるが，JICA からは本会が法人化したらお願いしたい仕事がたくさんあるといわれている。このような仕事も積極的に進めていきたい。

最後に，法人化は塙賢二名委員長のもと，法人化推進特別委員会の尽力でもう一息というところまで進んできた。塙先生はこれからも委員長としてご活躍くださることになっているが，新執行部も挙げて法人化と法人化後の日本小児科医会の発展のために，最善の努力を傾けたいと思う。

会員の皆様のご支援と御協力を重ねてお願い申しあげる次第である。